



特別講演会「既に始まりつつあるiPSテクノロジーの応用」開催報告【関連記事2ページ】

これから目指す心理学部の教育



心理学部長 中野 倫仁

今年4月1日付で心理学部長を拝命しました。前任の高橋憲男学部長が学部開設当初から築き上げてきた業績をさらに発展させるべく努力を継続してまいります。コミュニケーション障害および文理連携のこのころの科学という見地から、臨床心理学科と言語聴覚療法学科を統合した心理学部は11年目の新たな段階を迎えました。この間、このころの科学は東日本大震災という未曾有の災害や少子超高齢社会などの問題から、ますます重要な分野になってきています。

臨床心理学科においては、臨床心理士養成第1種指定大学院課程と一体的に教育を行い、高度職能人として心理職希望の学生に対応しています。また、一般企業への就職希望者へは産業カウンセラー養成講座を3年次に用意し、すでに4期の修了生を輩出しております。心理職の国家資格化の議論は関係学会・諸団体の間で現在進行中であり、本学部でも速やかに対応できるカリキュラムを用意して、法案成立に備えております。付設している心理臨床・発達支援セン

ターでも来談者数は一貫して増加傾向にあり、地域のニーズに着実に対応しています。

言語聴覚療法学科においては、OSCE(客観的臨床能力試験)とPBL(問題解決型授業)をいち早く導入し、大学病院の言語聴覚治療室との連携を図りながら臨床教育を行っています。言語聴覚士国家試験対策としては模擬試験を複数回実施し、国家試験形式の卒業試験を行っています。1期生以来、国家試験合格率は全国平均を上回り、その内2回は全国一を達成しています。また、全国でも珍しい3年次編入による2年課程での言語聴覚士養成が可能であり、多くの編入生が大変ハードなカリキュラムを乗り越えています。

両学科とも多様な学生に対応できるように、教員による少人数担任制、大学院生による学習指導などを取り入れ、指導しています。医療人育成という本学の使命と『唯一生き残れるものは変化できるものである』との考えを踏まえて、適応力のある学生の育成に邁進していきたくと考えています。

CONTENTS

これから目指す心理学部の教育	1
新任教員紹介	2
特別講演会開催報告 「大学間連携共同教育推進事業」に採択	
2013年度入試情報・入試結果速報	3
歯科医療最前線	4
薬学6年制教育支援システムの表彰 Poster Abstract Awardを受賞 インドネシア大学歯学部との姉妹校協定延長	5
2012SCP任命式・2011SCP報告会開催 SCPと衛生士専門学校生が 当別アパート組合との懇談会に参加	6
学校法人東日本学園後援会 学園・同窓会役員懇談会を開催 「薬事功労者厚生労働大臣表彰」を受賞	7
授業レポート	8
私の学生時代	9
OG訪問「心理学部臨床心理学科」	10
STUDENTS' ACTIVITIES & EVENTS 合同就職相談会開催	11
TOPICS	12
○薬物乱用防止に関するセミナーを開催 ○JADR総会・学術大会にて優勝 EDITOR'S NOTE	

新任教員紹介

新任教員

平成24年10月1日付



リハビリテーション科学部准教授
(作業療法学科)

浅野 雅子 (あさの まさこ)

PROFILE

札幌医科大学大学院保健医療学研究科博士課程前期、九州大学大学院芸術工学府博士後期課程修了。市立室蘭総合病院リハビリテーション部門作業療法士、八雲総合病院リハビリテーション科作業療法士、西九州大学リハビリテーション学部講師等を経て、本学就任。芸術工学博士。

歯学部

任期制助手(口腔機能修復・再建学系(高度先進補綴学)) 鈴木 元子

特別講演会を開催

「既に始まりつつあるiPSテクノロジーの応用」

11月29日(木)18時から「北海道医療大学特別講演会『既に始まりつつあるiPSテクノロジーの応用』」を開催し、道内外から358名の皆様にご参加いただきました。

講演会は、iPSアカデミアジャパン株式会社の村山昇作代表取締役社長を講師として迎えました。iPSアカデミアジャパン株式会社は、ノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥京都大学教授の研究成果を普及することを目的に、特許の管理等を行っています。

講演は「iPS研究の歴史」「iPS細胞技術のビジネスモデル」「幹細胞を取り巻く世界の動向」の観点からお話をいただいたほか、研究開発資金についてや、米国と日本の比較についても言及されました。

先般のノーベル生理学・医学賞受賞によって世界的な注目を集めているiPS細胞について今後の発展や個体差に係る活発な質疑応答がみられ、盛会のうちに終了しました。



座長(黒澤副学長)



理事長挨拶



質疑応答

講師(村山代表取締役社長)

本学歯学部の取り組みが、文部科学省 2012年度「大学間連携共同教育推進事業」(分野連携)に採択

「大学間連携共同教育推進事業」は、大学設置者の区分に関わらず地域や分野で連携した大学について、文部科学省が優れた取組を選定して重点的に財政支援を行い、教育の質の保証と向上、強みを活かした機能別分化を推進することを目的としたものです。

2012年度は153件(地域連携76件、分野連携77件)の申請がありましたが、本学が岩手医科大学および昭和大学(代表校)と申請した「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」事業(分野連携)は、採択49件(地域連携25件、分野連携24件)の一つに選ばれました。

【取組概要】

本取組は、これまで連携体制を築いてきた北海道医療大学、岩手医科大学、昭和大学の3大学がITを活用した教育センターを設立し、歯科医師会と協働して、いつでもどこでも学べるITを活用した歯学教育プログラムを構築し、1. 臨床推論能力 2. コミュニケーション能力 3. 自己評価能力を養成するものである。

■取組名称

ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成

■連携の種類

分野連携

■連携大学

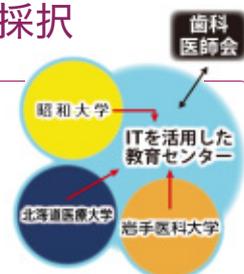
北海道医療大学、岩手医科大学、昭和大学(代表校)

■連携機関

北海道歯科医師会、札幌歯科医師会、岩手県歯科医師会、盛岡市歯科医師会、東京都大田区蒲田歯科医師会、東京都大田区大森歯科医師会、東京都目黒区歯科医師会、東京都荏原歯科医師会、東京都品川歯科医師会

■事業期間

2012年度から2016年度(5年間)



1/7(月)から一般前期入試、センター前期A入試の出願がスタート!!

一般前期入試試験日

試験日自由選択制

1/30(水)・1/31(木)

一般後期入試試験日

薬学部
歯学部

2/28(木)

看護福祉学部
心理科学部
リハビリテーション科学部

2/27(水)

〈一般前期入試は試験日自由選択制〉

一般前期入試は1月30日と1月31日の二日間実施します。両日受験しても、どちらか一日のみ受験してもかまいません。受験日は出願の際に登録します。また、検定料は両日受験した場合も一日のみ受験した場合でも一律30,000円です。さらに、複数学科の併願も可能で、何学科受験しても追加の検定料は一切かかりません。(一日の受験で併願できる学科には制限があります。詳細は「学生募集要項」でご確認ください。)

〈センター入試は合計3回実施〉

センター入試は前期A、前期B、後期の合計3

回実施します。

前期A入試は1月7日からセンター試験の前日までを出願期間とする3教科型入試。前期B入試はセンター試験終了後の翌日から1月28日までを出願期間とする2教科型入試。後期入試は2月に出願する2教科型入試です。大学独自の試験は実施せず、本学が指定する大学入試センター試験科目の得点のみで合否判定を行います。

また、リハビリテーション科学部を除く全学部全学科の併願も可能で、同一入試形態内であれば何学科受験しても追加の検定料は一切かからず一律15,000円で受験できます。さらに前

期A入試と前期B入試の両方の入試形態に出願することも可能です。(検定料はそれぞれ必要です)

〈一般入試とセンター入試の併願も可能〉

一般前期入試とセンター前期A入試、センター前期B入試の併願や一般後期入試とセンター後期入試の併願も可能です。

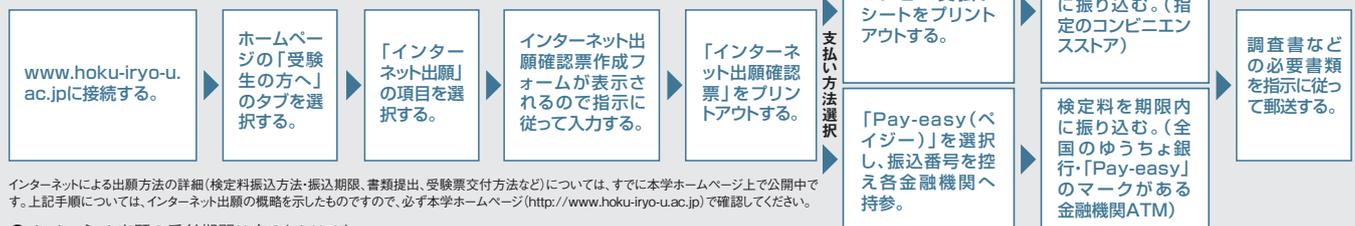
〈一般前期入試は全国13会場で実施〉

一般前期入試は、札幌、旭川、帯広、北見、函館、青森、秋田、仙台、東京、名古屋、大阪、広島、福岡の全国13会場で実施します。

インターネット出願について

本学では、2013年度入試のうち、センター試験利用入試(前期B・後期)と一般後期入試で、郵送による出願のほかにインターネットでの出願も受け付けます。センター前期B入試では、インターネット出願、書類による出願とも、大学入試センター試験終了後に出願することができます。

■センター入試(前期B・後期)と一般後期入試におけるインターネット出願の流れ



インターネットによる出願方法の詳細(検定料振込方法・振込期限、書類提出、受験票交付方法など)については、すでに本学ホームページ上で公開中です。上記手順については、インターネット出願の概略を示したものですので、必ず本学ホームページ(<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp>)で確認してください。

●インターネット出願の受付期間は次のとおりです。

【センター前期B入試】2013年1月23日(水)～2013年1月29日(火) 正午まで 【一般後期入試・センター後期入試】2013年2月13日(水)～2013年2月21日(木) 正午まで

2013年度 入試結果速報

北海道医療大学

推薦入試は本学をはじめ、全国8会場で実施。

AO方式入試は、全体で243名の志願があり、120名が合格、実質競争倍率は2.0倍となりました。

一方、11月11日(日)の推薦入試は本学当別キャンパスをはじめ、帯広、北見、函館、仙台、東京、大阪、那覇の全国8会場で実施。志願者総数は12月2日(日)(リハビリテーション科学部のみ)も合わせて165名(指定校特別推薦除く)で、実質競争倍率は1.9倍でした。

編入学試験は、全体で27名の志願があり、20名が合格、実質競争倍率は1.3倍となりました。編入学2期試験は、薬学部と歯学部は1月31日(木)、看護福祉学部と心理科学部は1月30日(水)に、それぞれ札幌、東京、大阪の3会場で行われます。

■2013年度 編入学試験(1期)結果

()内は前年度実績

学部・学科名	入試形態	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質競争倍率
薬学部	社会人	7(7)	3(3)	3(3)	2(2)	1.5(1.5)
	一般		6(9)	6(9)	4(6)	1.5(1.5)
歯学部	一般	若干名(若干名)	3(7)	3(6)	3(6)	1.0(1.0)
看護福祉学部 ●看護学科	社会人	6(7)	2(1)	1(1)	1(1)	1.0(1.0)
	一般		1(1)	1(1)	1(1)	1.0(1.0)
●臨床福祉学科	社会人		0(0)	0(0)	0(0)	—(—)
	一般	6(6)	3(2)	3(2)	3(2)	1.0(1.0)
	指定校		0(0)	0(0)	0(0)	—(—)
心理科学部 ●臨床心理学科	社会人	2(2)	0(2)	0(2)	0(2)	—(1.0)
	一般		2(2)	2(2)	1(2)	2.0(1.0)
●言語聴覚療法学科	社会人	7(6)	1(0)	1(0)	0(0)	—(—)
	一般		6(3)	6(3)	5(2)	1.2(1.5)
合計		28(28)	27(30)	26(29)	20(24)	1.3(1.2)

■2013年度 AO方式入試・推薦入試結果

()内は前年度実績

学部・学科名	入試形態	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質競争倍率
薬学部	AO方式	17(15)	47(44)	47(44)	29(28)	1.6(1.6)
	一般推薦	20(20)	28(24)	28(24)	20(20)	1.4(1.2)
	指定校特別推薦	25(25)	41(35)	41(35)	41(34)	1.0(1.0)
歯学部	AO方式	20(20)	12(17)	12(17)	12(17)	1.0(1.0)
	一般推薦	8(8)	0(1)	0(1)	0(1)	—(1.0)
	指定校特別推薦	8(8)	2(2)	2(2)	2(2)	1.0(1.0)
看護福祉学部 ●看護学科	AO方式	6(6)	54(61)	54(61)	10(10)	5.4(6.1)
	一般推薦	16(15)	47(50)	47(50)	18(18)	2.6(2.8)
	指定校特別推薦	16(15)	31(29)	31(29)	31(29)	1.0(1.0)
●臨床福祉学科	AO方式	15(15)	19(8)	19(8)	18(8)	1.1(1.0)
	一般推薦	10(10)	0(1)	0(1)	0(1)	—(1.0)
	指定校特別推薦	14(14)	21(21)	21(21)	21(21)	1.0(1.0)
心理科学部 ●臨床心理学科	AO方式	5(5)	15(24)	15(24)	9(9)	1.7(2.7)
	一般推薦	12(12)	13(15)	13(15)	12(13)	1.1(1.2)
	指定校特別推薦	8(8)	10(11)	10(11)	10(11)	1.0(1.0)
●言語聴覚療法学科	AO方式	12(6)	24(24)	24(24)	15(12)	1.6(2.0)
	一般推薦	7(7)	9(9)	9(9)	9(7)	1.0(1.3)
	指定校特別推薦	7(7)	12(15)	12(15)	12(15)	1.0(1.0)
リハビリテーション科学部 ●理学療法学科	AO方式	16(—)	60(—)	60(—)	19(—)	3.2(—)
	一般推薦	16(—)	54(—)	54(—)	20(—)	2.7(—)
	●作業療法学科	AO方式	8(—)	12(—)	12(—)	8(—)
	一般推薦	9(—)	14(—)	14(—)	10(—)	1.4(—)
合計	AO方式	99(67)	243(178)	243(178)	120(84)	2.0(2.1)
	一般推薦	98(72)	165(100)	165(100)	89(60)	1.9(1.7)
	指定校特別推薦	78(77)	117(113)	117(113)	117(112)	1.0(1.0)
		275(216)	525(391)	525(391)	326(256)	1.6(1.5)

歯学部附属歯科衛生士専門学校

AO方式入試に38名の受験。

本年度、AO方式入試には38名の受験があり、全員が合格、実質競争倍率は1.0倍でした。また、10月7日(日)と11月11日(日)に行われた推薦入試、12月2日(日)に行われた一般前期入試(A日程)に、それぞれ3名、1名の志願がありました。一般前期入試(B日程)は、1月31日(木)に札幌、旭川、帯広、北見、函館の全道5会場で行われます。

■2013年度 AO方式入試・推薦入試・一般前期(A日程)入試結果

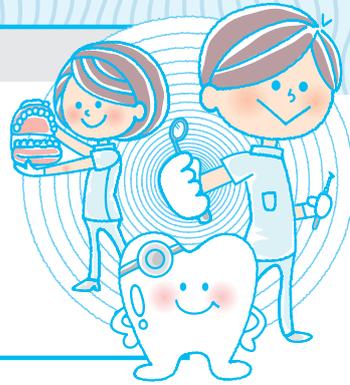
()内は前年度実績

学科名	入試区分	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質競争倍率
歯科衛生科	AO方式	20(20)	39(30)	38(23)	38(23)	1.0(1.0)
	推薦入試	17(17)	3(2)	3(2)	3(2)	1.0(1.0)
	一般前期入試(A)	5(5)	1(2)	1(2)	1(2)	1.0(1.0)
合計		42(42)	43(34)	42(27)	42(27)	1.0(1.0)

歯科医療 最前線

vol.7 最終回

〔チーム医療／医歯連携 編〕



患者さんを治すのは、医師一人ではなく、チームみんなの力です。

チーム一丸となって 患者さんを支えます。

歯科医院へ行くと、歯科医師のほかに複数のスタッフがいますね。歯科診療は歯科医師を中心とした「チーム医療」で行われています。その中でアシストをしているのが歯科衛生士。歯科医師の治療の一部を補助したり、予防的処置、歯のクリーニングやセルフケアの指導などを担当します。患者さんとの心のコミュニケーションに気を配ることも重要な役割です。また、歯科医師の指示のもと、天然の歯に代わる技工物を製作する歯科技工士もチームの重要なスタッフ。患者さん一人ひとりの歯、歯ぐきの状態に合わせて、精密な入れ歯やさし歯、セラミックや金属の冠（クラウン）、矯正装置などを作り、ミクロの技術を発揮しています。

どちらも歯科医師に欠かせないパートナー。歯科医療の進歩と共に、信頼で結ばれたチームワークは重要度を増しています。

医師同士のつながりが重要。 他の医療分野とも連携します。

勤務医として経験を積み、いずれは独立開業を。これは歯科医師の一つの目標です。開業し歯科医師が自分一人だけの場合、相談相手、また代診を頼みたいときなど開業医同士で協力し合わなければならない場面が必ずあります。そのとき大きな力となるのが母校のネットワーク。歯科医師の約75%は私立歯科大学・歯学部出身で、各大学とも多数の同窓生が活躍し、長い間つながれてきた強くて太い絆があります。また「女性歯科医師の会」のように、研修や情報交換を目的とした組織や活動を通じて、新しいつながりも生まれることでしょう。

他分野とのつながりでは、超高齢社会を迎え、全身的な病気をもつ高齢者の増加で一般医科の主治医との医療連携の強化が必要となっています。また糖尿病、歯周病

の患者さんに対する歯科医師と療養指導医の連携、平成22年には、歯科医師と管理栄養士・栄養士が連携・協働をはかる「健康づくりのための食育推進共同宣言」も始まりました。

患者さんに合わせて
チームが組まれる。
心強いね。



TOPICS

医療系総合大学の強みを生かし、 本学歯学部では、チーム医療で活躍する 歯科医師を養成しています。

本学は「保健・医療・福祉の連携と統合」の理念のもとで保健・医療・福祉の様々な専門職能人を養成しています。歯科医師の養成課程が単科大学に多いなか、他学部存在は貴重な教育資源です。学部の枠にとらわれない学際的カリキュラム、他学部の教員や学生との交流、すべてが将来のチーム医療の一員としてのたしかな基礎となります。治療の視点に加え支援という視点、専門性に加え患者さんの全体像をとらえる広い視野も自然に鍛えられます。また、全学部で卒業生が全国、海外に広げてきたネットワークが在学中、卒業後も様々な面でバックアップとなります。本学で、多彩なつながりを結びながら、チーム医療で専門性を発揮できる歯科医師をめざしてください。



歯学部長 有末 眞

薬学6年制教育支援システムが 私立大学情報教育協会から表彰

薬学部では、学際的チーム体制により開発したICTを利用する教育支援のための複数のシステムが稼働しています。このたび、11月27日(火)に開催された公益社団法人私立大学情報教育協会(289大学および101短期大学が加盟)第5回臨時総会において、これらのシステムに関して「ICT利用による教育改善研究発表会」で行なった発表「薬学6年制教育支援システムと主体的な学習時間の確保(発表者:二瓶裕之,和田啓爾,小田和明,中山章,唯野貢司,千葉逸朗)」が高く評価され、今年度の「奨励賞」を受賞しました。

本学薬学部のシステムの特長は、6年間の一貫したカリキュラムの中で学びの連続性を持たせて学習支援を行うことができることにあり、具体的な受賞理由として、6学年全ての科目を対象として独自の教育手法を細部まで具現化していること、教員が学際的に一体となってシステムの全てを自作したこと、学生が授業時間外においても問題演習に取り組むことができるな

ど主体的な学習時間の確保に貢献したこと、その結果として薬学共用試験や薬剤師国家試験で優れた結果を残し学部全体の教育の充実に大きく寄与したことなどが挙げられ、同協会からは、他の医療分野も含めた汎用的な情報共有基盤として発展を期待したいとのコメントも添えられました。

今年度、発表会では53件の発表があり、同賞を受賞したのは全国で2校のみという結果でした。なお、総会には薬学部二瓶裕之准教授および中山章講師が出席し、向殿会長(明治大学理工学部教授)から記念品等を授与されました。



心理学部臨床心理学科 金澤潤一郎助教が、 The 1st Asian Congress on ADHDにおいてPoster Abstract Awardを受賞

去る11月2日(金)・3日(土)、韓国ソウルで開催されたThe 1st Asian Congress on ADHDにおいて、心理学部臨床心理学科 金澤潤一郎助教がPoster Abstract Awardを受賞しました。受賞した研究のタイトルは「CBT for adult ADHD without methylphenidate: One month follow-up」(共著者:坂野雄二教授)で、薬物療法を行っていない大人の注意欠如・多動性障害をもつ方々に対して、認知行動療法という手法の心理療法を行った効果を検討したものです。

注意欠如・多動性障害は主に児童を中心に研究や臨床が行われてきましたが、2000年以降、成人を対象とした心理療

法の効果研究が実施されてきています。今後、アジア各国で同分野での研究と臨床が促進されることが期待されています。

世界的に注目を浴びている成人の発達障害に対する心理療法に関する研究者、臨床家として最先端の知見を海外に向けて発信している金澤助教の今後のさらなる活躍にご注目ください。



インドネシア大学歯学部との姉妹校協定延長

本学歯学部は、2007年10月にインドネシア大学歯学部と姉妹校協定(5年契約)を結び、両学部間での共同研究や共同国際セミナーを開催し交流を続けてきました。2012年11月9日、本学歯学部中澤教授がインドネシア大学歯学部を訪問し、姉妹校協定延長の提携書の交換を行いました。

提携書の交換式は、インドネシア大学のメインキャンパス(Depok campus)本部棟内の特別会議室で行われ、インドネシア大学学長、インドネシア大学歯学部副学

部副学部長と中澤教授の挨拶に続き、インドネシア大学学長が、「両学部間の交流が今後増々活発になることを期待する」と語りました。

その後、インドネシア大学歯学部主催の歓迎昼食会が行われ、和やかに

に歓談しながら、今後の両学部間交流について話し合いが持たれました。

また今回の姉妹校協定延長を記念する国際セミナーが開催され、本学大学院歯学研究科2年生眞島いつみさんの研究発表、中澤教授の特別講演、シドニー技術大学Meiya Sutisno教授の特別講演が行われました。



右からインドネシア大学歯学部副学部長 Dr. M.Suhaisini Soeto、インドネシア大学学長 Dr. Ir. Muhammad Anis、中澤教授

インドネシア大学歯学部副学部長 Dr. M.Suhaisini Soeto(右)と中澤教授(左)



Student Campus President 〈学生キャンパス副学長制度〉

2012 SCP任命式・2011 SCP報告会が開催されました。

10月23日(火)、2012 Student Campus President (学生キャンパス副学長) 任命式が行われました。

薬学部、歯学部、看護福祉学部、心理科学部から選挙により選出されたSCPに対し新川学長から任命状と専用ブレザーが手渡され、激励の言葉を頂きました。

引き続き、2011年度SCPの活動報告会及び2012年度SCP懇談会が開催され、東郷理事長・新川学長ほか、各学部学部長・学生部

長同席のもと、SCPからの活動報告や自己紹介などが行われました。

報告会では、大学所在地の当別町や商工会との連携にて実施された様々な活動内容などについての報告がありました。

また2012年度SCPには東郷理事長から激励の言葉を頂きました。

SCPは、より良い大学づくりのために学生代表が教職員とともに各種プロジェクトの企画・立案を行い実施する、全国でもめずらしい

北海道医療大学独自の制度です。

今年で5代目となるSCP。その多岐にわたる活動は、全国から大変注目されています。

SCP活動状況については、随時、SCPホームページやブログにて報告いたしますので、ぜひともご覧ください。

SCPホームページ

<http://scp.hoku-iryuo-u.ac.jp/>



薬学部 SCP 決定



薬学部 薬学科 1年
小野寺 太助 (おのでら だいすけ)

「新医療人として／垣根を越えて」

今この瞬間も医療は進歩し続けています。変化し続ける「医療」を常に的確に捉え、対応しうる人材を社会は求めているように感じています。そのためには、日々、学友たちと切磋琢磨しながら、「1を聞いて10を学ぶ」気持ちを私たち自身が持つことが大事だと考え、貪欲に学び進むことのできる環境づくりに取り組みたいと思います。

もう一つ取り組みたいことは、多様な考え方を知ることのできる場を提供したいということです。私たちは、その多くが将来医療に携わることとなりますが、医療の場には、様々な立場の方がいます。お互いを尊重しながら、チームワークで取り組むことは欠かすことのできないものだと思います。学生が、学部の垣根を越えて協力し合い、一つのことを成し遂げるような活動はもちろんのこと、学内にとどまらず、地域の方とボランティア活動と一緒に一緒になっておこなう、地域の振興について一緒に考えるなど多様な考えに触れる機会を提供していきたいと考えています。

どうぞよろしくお願いいたします。

Student Campus President 〈学生キャンパス副学長制度〉

SCPと衛生士専門学校生が 当別アパート組合との懇談会に参加しました。

11月22日(木)、当別町の田西会館にて当別アパート組合様との懇談会が開催されました。



当日は当別町在住者を含むSCP(学生キャンパス副学長)4名と歯学部附属歯科衛生士専門学校学生2名、小田薬学部学生部長、岡橋歯学部附属歯科衛生士専門学校専任教員、学生支援課員が本学より参加し、松岡組合長様ほか当別アパート組合の方々10数名と活発な意見交換を行いました。

本学学生たちの積極的かつ具体的な意見に対し、参加された当別アパート組合の方々より、「大変参考になる意見がきけた有意義な懇談会となった。」との言葉を多数いただきました。



本学の所在地・当別町には約700人の学生が住んでいます。今回のような大学と地元のアパート組合との交流は全国でもあまり例がなく、こうした交流により、本学学生の住環境の更なる向上につながる貴重な機会となっています。

当別アパート組合のホームページ

※本学学生の声が掲載されています。

<http://www.tobetsu.or.jp/t09/index.html>

地区別懇談会を開催しました。 多数のご出席ありがとうございました。

2012年度の地区別懇談会は、10月13日(土)から11月4日(日)までの期間、全国15会場(右表参照)で開催し、487組680名のご父母の皆様がご出席くださいました。(出席率15.9%)

懇談会は、総会(後援会・学園役員挨拶/学園動向報告)、学部・学校別懇談会(現況報告/国家試験・就職関連)、全体懇談会、個別面談(学生生活全般に係るご相談)を実施し、特に個別面談においては、担当

教員との熱心な相談が行われていました。

後援会は、学生のサポート役、ご父母の皆様と卒業生、学園とを結びパイプ役、また、学園の牽引役として組織の強化、地区支部の活性化、学生生活関連助成、同窓会活動支援を柱とし、昨年の東日本大震災に係る「被災地出身学生に対する帰省旅費補助」をはじめとする学生への様々な支援により、学生生活における快適な環境をつくることを大きな目的として事業活動を推進しております。

その中でも地区別懇談会は、後援会が「ご父母の皆様と学園を繋ぐ貴重な架け橋」として最も力を入れて推進している事業活動のひとつであり、皆様がより一層満足くださるよう今後更なる充実、改善を図って参りますので、温かいご支援、ご理解とご協力を賜り、来年度もぜひご出席くださいますようお願い申し上げます。



個別面談(札幌会場)

開催地	開催日	出席者数	
		大学・大学院	専門学校
札幌	11月4日(日)	161組	9組
旭川	10月20日(土)	40組	2組
北見	10月21日(日)	23組	1組
釧路	10月20日(土)	20組	3組
帯広	10月21日(日)	40組	3組
函館	10月27日(土)	27組	3組
青森	10月28日(日)	19組	—
盛岡	10月14日(日)	6組	—
仙台	10月13日(土)	18組	—
東京	10月27日(土)	33組	—
大阪	10月28日(日)	26組	—
名古屋	10月14日(日)	13組	—
広島	10月28日(日)	9組	—
福岡	10月27日(土)	17組	—
那覇	10月13日(土)	14組	—
小計		466組	21組
合計		487組	



総会(札幌会場)

学園・同窓会役員懇談会を開催しました。

11月21日(水)午後7時からホテル札幌ガーデンパレスにおいて2012年度学園・同窓会役員懇談会を開催しました。

懇談会には、各同窓会役員等24名、並びに学園から東郷理事長、新川学長、黒澤副学長、栗田常務理事、大野理事、和田薬学部部長、野川看護福祉学部長、中野心理科学部長、東城歯学部附属歯科衛生士専門学校長、及び事務局7名の総勢41名が出席しました。

懇談会は、理事長、学長による挨拶後、学園から入試概要、学園動向、学部・学校現況の報告、各同窓会から活動状況のご報告がありました。

各同窓会一学園間の盤石な協働体制及び同窓会相互の垣根を越えた横断的な交流の重要性を再認識し、盛会裏に終了しました。



東郷理事長挨拶



各同窓会から現況報告

薬学部第6期卒業生 大橋得二氏 「薬事功労者厚生労働大臣表彰」を受賞されました。

去る10月23日(火)、「薬事功労者厚生労働大臣表彰」の表彰式が厚生労働省講堂で行われ、薬学部第6期卒業生 大橋得二氏(現、沖縄県北部地区薬剤師会長)に表彰状及び記念品が贈られました。

「薬事功労者厚生労働大臣表彰」は多年にわたり、薬事関係事業の発展向上に貢献し、薬事行政の推進に大きな功績があった者及び団体をたたえ、薬事行政の推進に寄与することを目的とするものです。今年度の83名の受賞者の内訳は、薬剤師会関係が46名、医薬品配置販売関係9名、薬種商販売業・医薬品登録販売業関係8名、などとなっています。

大橋氏は、中心となり策定した「在宅基幹薬局とサポート薬局の連携システム」事業計画が国の保険医療制度の新たな枠組みとしてモデルとなるなど、数々の功績が高く評価され、今回の受賞となりました。

表彰にあたって三井厚生労働大臣(当時、榮畑医薬食品局長が代読)は、

6年制卒業薬剤師が今年度初めて誕生したことや、在宅医療患者の増加、チーム医療などに触れ、「薬剤師の取り巻く環境が大きく変化しており、今後は一層専門性を発揮することが期待されている」との祝辞を述べられました。



大橋得二氏

授業レポート

薬学部 薬学科 [6年制]

基礎薬学Ⅱ実習 [生薬学実習]
2年次 必修

今回のレポーターは

2年 大野 泰河 さん
北海道 雄武高校卒

高校の職業体験で出会った薬剤師の仕事に理系魂が反応して進路を決定。4名1チームで大きな赤い羽根をネット越しに手で打ち合うインディアカ同好会でも185センチの長身を生かし活躍中です。



エッセンシャルオイルやハーブティー、見て、触れて、嗅いで、飲んで、薬学の視点から迫ります。

ハッカ精油を抽出。

2年次後期になると、午後いっぱい実習という日が平均で週3日あります。なかでも生薬学実習は、ハンドクリーム作りやハーブティー、漢方薬の調合などバラエティ豊かな経験ができ、「何が起きているか目に見える」「身近なものや薬学の関連を実感できる」と人気です。

きょうはメントール成分でおなじみハッカ精油の水蒸気蒸留です。ガラス製の蒸留器具をすき間なく連結したら、きのうからハッカ乾燥葉50gを蒸留水600mLに浸けておいた丸底フラスコをセットしてガスバーナーに着火、沸騰してからじっくり弱火で1時間加熱します。同じ葉の量、同じ時間でも諸条件で採れる精油の量が違うといわれると、隣の班が気になります。フラスコの中は沸騰してきましたが、まだあのスーとした香りは漂ってきません。



ハッカ精油は医薬品扱いのため薬局方のとった器具、方法で蒸留します。ゆっくり1時間かけて採った精油はハンドクリーム作りの実習にも使えます。

香り対決！ラベンダーVSハッカ。

加熱している1時間は明日のラベンダー精油蒸留実習の準備です。富良野産乾燥ラベンダーを茎も花も細かくカットします。はさみを入れるたび放たれる驚くほどの芳香！ハッカの香りがたつ前に実習室はラベンダーの香りですっきりになってしまいました。カットしたラベンダー60gはハッカ同様600mLの蒸留水に浸して明日まで置きます。

余談ですが、薬学部では「ミリリットル」などの



北海道らしい風景の一つ、富良野のラベンダー畑から届いたラベンダーは香りもゴージャス。細かくカットするほどいい精油が採れます。

「リットル」は、数字の「1」やスラッシュ「/」と間違えないよう必ず大文字「L」で書きます。これは日本薬局方の表記方法にのっとったものなんですよ。

わずか0.7mLの大成功。

さて、1時間たちました。火を消して精油定量器の目盛りを読むと…0.7mLです。50gの乾燥葉からこれだけ？精油って貴重なんですね。

ハッカの入ったフラスコを外すと、メントールの強烈な香りが鼻腔を抜けました。ツーン、気分爽快！そしてその奥にはぬれた草のビミョーなおい…。におい付だと記憶にも鮮明に残りそうです。

次のステップでは、薄層クロマトグラフィー(TLC)で、メントールとメントン含有を確認します。TLCプレートに50倍に薄めたハッカ精油と、メントール(C₁₀H₂₀O)、メントン(C₁₀H₁₈O)の標準溶液をそれぞれ2μL(マイクロリットル)たらし、展開



希釈した精油の含有成分を確認するため、細いガラス製の管(キャピラリー)で2μLを計量(マイクロリットルは1000分の1mL)。実習では、細かい単位が頻繁に出てきます。

溶媒を入れたガラス容器に入れ、取り出して乾燥し、発色試薬に浸してホットプレートで熱するという手順です。わたしたちのプレートにはメントール、続いてメントンを示す青と緑の色がしっかり現れました。無事、成功です！

きょうの実習は、難しさはなく、手順、方法を間違えなければ誰でも当然の結果を出せます。でも、当たり前前のことが当たり前になるようになるのが実はとても大切。そういうことが、2年目になってだんだんわかってきました。



“実習・実験大好き”が集まる大野さんの班。きょうの器具も、てきぱき手際よく組み立てました。

担当教員より

基礎薬学Ⅱ実習の秘密

● 高上馬 希重 准教授

基礎薬学Ⅱ実習は有機化学実習(I)、有機化学実習(II)、生薬学実習の3つのパートで構成されています。有機化学パートでは実験器具の取扱い、化学反応、化合物の分離・精製など医薬品実験で不可欠な基礎技術の習得を目指しています。生薬パートでは漢方薬原料生薬やハーブなどを実際に手に取り、それぞれの特徴を五感で体験します。そして有機化学パートで身につけた技術を駆使して、自分の手に取った生薬などに含まれる化学成分の分析をするプログラム構成になっています。匂いや味として感じたものが化学成分であるということを自分の力で体験した時の学生たちの驚きを見るのは、教員スタッフの密かな楽しみです。

私の学生時代

薬学部
薬学科

准教授 大橋 敦子



大学入試の共通一次試験(今のセンター試験)が新しく始まった年に北海道大学に入学しました(「選択肢から選ぶ共通一次試験で育った学生は自分の頭で考えない」とよく言われたものです)。兵庫から憧れの北海道にやってきて大学生生活が始まると、何でも楽しくて楽しくて、瞬間に過ぎて行きました。志望の獣医学部に進級し、馬や牛の解剖に度肝を抜かれたり、生化学、生理学、薬理学、微生物学など講義や実習に追われながら、友達と助け合い多くの試験を乗り越えました。



薬理学教室のスキー旅行です。修士論文を提出した直後なので、みんな嬉しそう。ストックで遊んでいる伊藤先生(左から4人目)。私は左から2人目。

その獣医学部でも新しく「大学院修士課程を利用した6年間の獣医学教育」が始まったばかりでした(今は大学6年制の学部です)。全員が修士に進学し、それまでと同じレベルの修士論文をまとめるという方針により、2年間じっくりと大学院生の日々を満喫できました。朝から晩まで研究室にいて、研究に夢中の先生や先輩や友達に囲まれて、実験したり論文を読んだり討論して過ごしました。研究室でスキー旅行に行ったり(左下写真)、他の教室とチームを作って運動会に参加したり(右上写真)、遊びも力いっぱいやりました。その日々の中で、指導の先生や先輩に助けを借りながら、実験がうまくいった時の楽しさや、論文をまとめる面白さを自分で感じ取ることができたのです。この経験のおかげで、その後も素晴らしい研究者の先生方に出会う幸運を得て、自分の興味や進路が変わっていきました。

12月の修士論文の発表会が終わると、3月の



獣医学部の運動会です。大賀先生(前列左)と中里先生(前列右)も参戦して下さいました。私は左から2人目です。

国家試験に向けて勉強が始まりました。専門以外の科目は2年以上のブランクがあります。まだ国試対策本もなく、研究室ごとに専門科目の対策ノートを作成して1冊にまとめました。間に合わないと感じながらも本気で勉強すると、何が大事か見えてきますし、効率の良い勉強の仕方もわかってきます。国家試験を乗り越えた経験は、職業の資格という意味だけでなく根底から自分を支えてくれます。薬学部は6年制が完成したばかりの手

探り状態の上、薬剤師国家試験は毎年新しい薬が増えるので大変ですが、薬学生の宿命と覚悟を決めて頑張らしよう。

私の学生時代

今、本学の教壇に立たれている先生たちは、学生時代をどのように過ごしていたのでしょうか。今回は大橋准教授と志渡教授のお二人に、当時の様子を語っていただきました。

私が学生だった頃

看護福祉学部
臨床福祉学科

教授 志渡 晃一



私にとって、自らの過去を振り返って、なぜこの道を選んできたのかについて明確な意味づけをすることは困難である。現在に至るまでの一貫した信念や行動を披露しようとしても後付けの感が否めない。しかし、せっかくの機会を与えられたのだから学生諸君に反面教師としての私の履歴をお聞かせすることとしたい。なお、本稿には大学時代の写真を数枚添えることになっているが、火災(もらい火です)のため消失している。残念ながら若き日の姿をお目にかけられることはできない。お許し願いたい。

1歳8か月にポリオに罹り「右下肢に著しい機能障害」を負ったため、小学校2学年から卒業まで札幌市内の真駒内養護学校に通学した。その後、普通の中学に進学し、高校入学の頃から漠然と大学院に行きたいという思いが芽生えていたように思う。そのため大学進学には何の躊躇いもなかった。「社の都での学園生活を…」というパンフ

レットに惹かれて、1979年4月に仙台市にある東北福祉大学社会福祉学部社会教育学科に入学した。札幌の親元から離れて一人暮らしがしたい。大都会は苦手だかといって田舎にも魅力を感じない。またあまり暑いところは嫌である…といったしょうもない理由から進学を選択した(ただし、養護学校時代の担任の太田清先生に対する尊敬と憧れから、教員免許を取得したいという真面目な思いが確かに選択理由のひとつにあったことは事実である)。

大学へは片道40分かけて毎日徒歩で通った。寺社の境内などを通り抜ける道行には季節感があり決して苦行ではなかった。当時の体重が50キロ台でぜい肉が無く、高校時代に卓球部で鍛えた体力があったためなのだと思う(卒後35年、今では体重が10キロ以上増えて立派なメタボ体型となっている)。アパートの部屋には四季を通して電気炬燵があるだけで、扇風機、冷蔵庫もなくテレビも電話もなかった。コンビニはなく、買い物は坂を500メートルほど下った(午後7時過ぎには閉店する)商店街に向くしかなかった。休日の昼過ぎからずっと本を読んでいて、文字が見えづら

思ったらもう日が暮れていたことに気づくこともあった。数日の休みの間、誰とも話をしないことも少なかつた。一人なのだと実感した。とりわけ誰もいない部屋に帰って電球に灯をつける瞬間が寂しかった。

さて、大学の講義で印象に残っているのが、「法学」の講義である。担当教授はドイツ帰りの法学博士の渡辺信英先生である。いつも武者小路の友情などの文学の話ばかりをされていた。その中で、ロビンソンクルーソーを題材とした「自由の内部的制約」が妙に心に残っている。「他者の自由を侵害しない範囲で自己の自由が認められる」ということだったと思う。卒業ゼミではインド哲学専攻の文学博士である杉本卓洲先生に師事した。恩師からは「冷たい頭と温かい胸」という言葉を頂いた。さらに「その人の人格を超えた教育はできない」という言葉とともに大学院進学に向けて背中を押して下さった。不肖なりともこの言葉を折に触れ反芻している。我が北海道医療大学に当てはめると「その人の人格を超えた医療・保健・福祉などの対人サービスはあり得ない」ということになろうか。学生諸君の健闘をおおいに期待している。

OG訪問



庄木さんは、大学院修士課程修了後、臨床心理士の資格を取得、精神腫瘍科に所属し、がん患者の心のケアを担っています。さらに大学院博士課程にも在籍。臨床と研究両面から、まだ新しい学問、精神腫瘍学(サイコオンコロジー※)に果敢にアプローチしています。

※精神腫瘍学/サイコオンコロジーは心理学(サイコロジー)と腫瘍学(オンコロジー)を組み合わせた造語。

国立がん研究センター 中央病院 精神腫瘍科 勤務

庄木 晴美さん

(心理科学部臨床心理学科2006年卒業、
大学院心理科学研究科臨床心理学専攻修士課程2008年修了、
現在博士課程在学中)

■ がん領域専門の心理士

庄木さんが心理療法士として勤務するのは、1992年、全国に先がけて開設された国立がん研究センター中央病院の精神腫瘍科です。精神腫瘍科はがん患者さんの主治医(身体医)から依頼を受け、精神腫瘍医(精神科医)と心理療法士がペアを組み患者さんとそのご家族の心のケアにあたる診療科です。精神腫瘍医は主に薬物療法を、心理療法士はカウンセリングやケースマネジメントを担当し、病状の進行や手術後の体の状態の変化により現れる様々な精神症状に合わせ、苦痛を緩和し、その人らしい生活をサポートします。

精神腫瘍学の歴史が浅いこともあり、庄木さんのようにがん領域専門の心理士の役割は現状では未知数です。庄木さんも「チーム医療の中でケースに積極的に関与して心理士の存在をアピールしつつ、他の医療職の領域を侵さず黒子のように動く、そのバランスを意識します」と、自身のキャリアだけでなく、道を開いていく者の責任を感じています。

■ 死生観に触れて

庄木さんは年間およそ80人のがん患者さんご家族の話を聞いています。「がんという身体疾患が心理療法のハードルをさらに上げる」という現実に、自身が専門とする認知行動療法のエッセンスを取り入れて臨みます。

当初は、患者さんの深い苦悩の前に「志はあって



身体面も精神面も、患者さんの情報は電子カルテ等で細かに共有。もちろんカンファレンスにも参加します。

も人生経験に乏しい自分がどこまでできるか」という不安、死生観に触れ、みつからない正答を求める苦しさも味わいました。しかし、困難の数に比例するように「がん患者さんの伴走者でありたいという気持ちはますます強くなった」と言います。

■ 「同志」、そして「コンパス」

庄木さんが担当した中に、がんの再発時に予後の厳しさを告知された患者さんがいました。健康ならエネルギーあふれる30代。患者さんは死に対する恐怖、絶望に打ちのめされましたが、庄木さんと一緒にそれを越え、毎日をいかに楽しく過ごすかを考えられるようになったそうです。亡くなるまでの半年間、1日1日を大切に生きた患者さんとの関係は「まるで同志のようだった」と言います。話を聞くだけで胸がつぶれるような数々のケース、その度に庄木さんは心理士の存在意義を確認し、使命感を奮い立たせてきたのです。

心理士の仕事は目に見えるかたちで報われることは少ないかもしれませんが、だからこそ「私のコンパスです(道に迷った時、方向を示す存在)」という患者さんのひと言が宝物になります。そして何より、心のケアを必要とする人がいる臨床には心理士を引きつける大きな力があります。「心理士はクライアントと自分、両方の人間の幅を広げる素晴らしい仕事です」。臨床を知らなければ出なかった言葉に、庄木さんの誇りを感じます。

■ 医学会へのチャレンジ

庄木さんは社会人大学院生として博士課程の学位論文「がん患者の心理社会的支援に対する認知・行動に関する研究」に取り組んでいます。就職してからは、業務外での



外来、入院の患者さんに加え、他病院のがん患者さんにも対応します。治療中も終末期も、生活の質を最大限保てるよう専門知識と技術、人間性を総動員します。



修士課程在籍中、坂野研究室で国際学会参加のためにバレロナへ。坂野雄二教授(中央で光っています)は、日本における認知行動療法の第一人者です。

個人的研究にも不可欠となる医師はじめ職場の理解と協力を得るなど体制づくりから始めました。「困難な場面を多々乗り越え、数年がかりでようやく調査ができる段階になりました」。

時間も限られている中、何がそこまで庄木さんを研究に駆り立てるのか、答えは学部3年に入った坂野ゼミにありました。漠然とした好奇心から心理学を学び始めた庄木さんでしたが、先輩の姿に触発されたのです。「ストリクトな研究姿勢、心理の世界の高みをめざす向上心、そして坂野ゼミの看板を背負う誇りにしびれました」。

2012年、庄木さんは国内トップクラスの精神腫瘍医が集う合同班会議で研究計画をプレゼンしました。「手厳しい指摘を受けた」そうですが、目標とする学会発表へ、着実に歩を進めています。

国民の3人に1人ががんで亡くなるというこの国の精神腫瘍学の発展をリードするトップランナーの心理士へ。庄木さんの努力が実を結ぶ未来を期待せずにはいられません。



庄木さんは緩和ケアチームにも所属しています。庄木さんの右は緩和ケアチームの看護師、他の3人は心理療法士です。

文化週間

文化週間を振り返って

文化局長代理 鍛冶 麻衣子 (薬学部2年)

今年も10月29日(月)～11月2日(金)にかけて文化週間を開催しました。

文化週間とは、文化局に所属している文化系サークルが展示発表や演奏会、部活動の一般公開などを通して、学生や教職員など多くの方々にそれぞれの団体がやっている活動内容を知っていただくため、毎年開催している企画です。

今年もたくさんの団体が文化週間に参加しました。今年初参加となった合唱同好会の合唱コンサートや弦楽部、吹奏楽団による演奏会。美術部、写真部の作品展や植物研究部、Fisherman's

Dine Club、萬屋のポスター発表、茶道部によるお茶と和菓子の無料提供や演劇サークルによる演劇公開稽古などそれぞれのサークルが個性を活かした様々な発表を行い、文化週間を盛り上げてくれました。

来年もよりたくさんの方々には文化週間を楽しんでいただけたら幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

最後になりましたが、文化週間にご参加・ご協力して下さった皆様、どうもありがとうございました。



弦楽部

開催内容

ESSクラブ	洋画鑑賞会・英会話
囲碁・将棋部	ポスター掲示・部室での対局
SF研究会	部誌配布・似顔絵書き
軽音部	文化週間ライブ
弦楽部	弦楽部コンサート
茶道部	和菓子とお茶の提供
歯科医療問題研究会	活動報告会
写真部	写真展覧会
植物研究部	ポスター掲示(アロマについて)
美術部	美術部作品展覧会
北海道医療大学吹奏楽団	吹奏楽団コンサート
YOSAKOIソーラン祭り部	過去演舞のDVD上映
あいの里ダンス同好会(HAPPLY)	ダンスショー・ハロウィンパーティー(お菓子プレゼント)
アカペラ同好会	アカペラコンサート
演劇サークル劇団「りよだ」	部長・長谷川准教授による演劇公開稽古(参加自由)
カフェ同好会	コーヒーの無料提供
合唱同好会	合唱コンサート
手話サークル	手話に関する掲示・手話コーラス
当別ダンス同好会(PRANCY)	ビデオ上映
萬屋	ポスター掲示
Fisherman's Dine Club	活動風景写真の展示
Pharm*H	活動内容のポスター掲示



アカペラ同好会



カフェ同好会

球技大会

盛り上がった5日間

大学祭実行委員会 菅原 美樹 (看護福祉学部1年)

今年の秋季大会は11月12日～11月16日の5日間で、事前にアンケートを取り、人気を集めた



バスケットボール

バレーボール・バスケットボール・フットサルの3つが行われました。

バレーボールでは、今年から新しく「リベロ」に関するルールを設け、予選からどのチームも、一歩も譲らない迫力のある試合を繰り広げていました。バスケットボールでは今年、女子の人数が少なく男子のみの参加となりましたが、実力差もある試合でも、最後まで真剣にそして楽しく行っていました。フットサルでは、試合時間内に決着がつかずPKを行うことが多く、手に汗握る試合展開に、参加者皆が楽しく競技に取り組んでいるように見受け



バレーボール

られました。

今年は新たに、参加者に保険に加入してもらうことで、より安全に安心して競技に参加してもらえるようにしました。

今回の秋季大会に協力していただいた多くのみなさま、本当にありがとうございました。

2012年度 北海道医療大学合同就職相談会開催

10月26日(金)、臨床福祉学科・臨床心理学科・言語聴覚療法学科を対象、11月29日(木)、薬学部学生を対象とした「2012年度学内合同就職相談会」が開催されました。

26日には北海道内および関東・東北圏から、29日には北は稚内から南は沖縄まで、道内外の病院・施設・企業・公務等団体から、各部門責任者・人事担当の方々が多数来学され、学生に対して就

職に関する説明や相談等をしていただきました。

参加した学生は各ブースを積極的に訪れ、相談等を行うなど、終始賑わいをみせていました。

また、会場内には専門のインストラクターを招き、面接対策や公務員等試験対策コーナー等も設け、そちらでも積極的な質疑応答の姿が多数みられました。

本学では各学部ごとにほぼ毎月、就職ガイダンス等を行い、学生の卒業後の確実な就職にむけて、教職員協働のうえ、きめ細やかな指導をしております。本学各学部・学科に関わる職種の求人お申込については、本学ホームページをご参照ください。



10月26日 [参加団体] 81 団体

●病院: 43病院 ●一般企業: 4社
●社会福祉施設: 29団体 ●公的機関: 5団体

11月29日 [参加団体] 151 団体

●病院: 69病院 ●薬局: 71社
●製薬・卸等: 6社 ●行政: 5団体

就職関連ホームページ

<http://www.hoku-iryu-u.ac.jp/~syusyoku/index.html>

12/3 薬物乱用防止に関するセミナーを開催しました。

12月3日(月)、北方系伝統薬物研究センターと薬物事件再発防止対策委員会共催による全学生・教職員を対象とした、薬物乱用に



関するセミナーが開催されました。

講師に厚労省国立医薬品食品衛生研究所生薬部第3室長の花尻瑠理先生をお迎えし、乱用薬物の危険性などについてご講演いただきました。

セミナー会場には180名を超える学生・教職員が参加し、質疑応答を含め2時間ほどのセミナーは盛況のうちに終了となりました。



本学では学生の薬物乱用防止への取り組みとして、このようなセミナーを毎年開催しているほか、関連性のある講義やガイダンス等で、学生に対して日々啓発活動を行っています。

12/14 第60回国際歯科研究学会日本部会(JADR)総会・学術大会において Joseph Lister Awardの1st Prize(優勝)を受賞しました。

去る12月14日(金)、新潟コンベンションセンターで開催された第60回国際歯科研究学会日本支部(JADR)総会・学術大会にて、本学歯学部6年生原田文也さん、都倉堯明さんが Joseph Lister Awardを受賞しました。これは



歯学の発展に寄与する若手研究者の育成を目的とし、歯学部の学生を対象に今年より国際歯科研究学会日本部会(JADR)が設けた賞です。研究のタイトルは「Effect of Rho

kinase inhibitor on Epithelial Rests of Malassez (Rho キナーゼ抑制剤のマラッセ上皮細胞への影響)」で、Rho キナーゼ抑制剤が、エナメル質を再生する可能性のあるマラッセ上皮細胞の老化を抑制して培養効率を上げ、エナメル芽細胞への分化に関与することを



明らかにしたものです。(指導教授:臨床口腔病理学 安彦善裕教授)

応募者の中から書類審査により3人に絞られ、学術大会当日のポスター形式の発表および質疑応答による選考結果により、原田さん、都倉さんの研究が優勝いたしました。

EDITOR'S NOTE

人間はつくづくすばらしい方法をもった動物だと思います。生きていくために弱肉強食の食物連鎖とは違ったシステムを選んだのですから。自分の持っている力を他者のために提供し、助け合いながら生きています。教育という方法で自分の得た知識・技術を次の世代に伝え、ケアによって弱い立場の人も社会の中で一緒に生活していきます。

哲学者ミルトン・メイヤロフは、書物「ケアの本質～生きることの意味」のなかで、次のように述べています。「人をケアするとは、その人が成長すること、自己実現することをたすけることである」「相手の成長を助けること、そのことによってこそ私は自分自身を実現する」と。また、こうも言っています。「ケアする人は忍耐強い。なぜなら、相手の成長を信じているからである。しかし相手に忍耐を示すと同時に、自分自身に対しても忍耐せねばならない」

ケアは、提供する人と受ける人相互が成長し合うもの。根気よく相手の成長を信じ、自分の成長も信じるということです。医療と教育、よく似ています。私たちは、この大学で、人間が人間であることの根源になっているその両者の中に存在しています。これからも大いに成長していけそうです。(R.T記)

ADVANCE

北海道医療大学広報誌 No.153

STAFF ● 増田 園子 浜上 尚也 安彦 善裕 中山 英二
鎌口 有秀 志渡 晃一 竹生 礼子 富家 直明
榎原 健一 杉原 佳奈 長原 利明 宮崎 隆志
國見 明美 戸藤 成人

発行日 ● 2013年1月18日

編集・発行 ● 北海道医療大学広報・教育事業部 入試広報課
〒061-0293 北海道石狩郡当別町金沢1757
☎(0133)22-2113
http://www.hoku-iryu-u.ac.jp

広報誌についてのご意見・ご要望・情報等をお待ちしております。
E-mail:nyushi@hoku-iryu-u.ac.jp

■北海道医療大学の教育理念
生命の尊重と個人の尊厳を基本として、保健と医療と福祉の連携・統合をめざす創造的な教育を推進し、確かな知識・技術と幅広く深い教養を身につけた人間性豊かな専門職業人を育成することによって地域社会ならびに国際社会に貢献することを本学の教育理念とする。

